黒潮町の文化財 No.11

『蓬莱山南覚院飯積寺と本尊仏像一基』

田野浦港より見て北西の方角にある、飯を積み上げたような丸山が飯積山（標高217m）です。

地区の人は「カンノンサン」（山、寺、本尊すべての総称か）と呼んでいます。

地区の北西の端に1枚の看板があり、それより山手に登山道があります。歩いて40分、車なら10分位で、頂上の飯積寺に着きます。

※平成2（1990）年大方町文化財指定。

■蓬莱山南覚院飯積寺

この寺は弘法大師の開基といわれています。

現在は、住職が田野浦地区から通ってお寺を守っています。

8合目にある休憩所は、眼下に太平洋はもちろんのこと、西は四万十川河口、東は井ノ岬までも見ることができます。ここから眺める初日の出は見事で、平日でも天気の良い日には景観を楽しんでいる人を見かけます。

ここから車で頂上まで行けば比較的広い駐車場もありますが、普段の日は夕方から参道に鎖がはられています。

休憩所に車を置き、旧参道を登って行く方法もあります。この参道は、木々の中を苔蒸した石段が寺まで続いており、5分程で着きますので、ぜひこの方法をお勧めします。

また、本院の裏に雷電権現がまつられており、1200年ぐらい前の時代のものであろうといわれていますので、ぜひお寄りください。

■本尊仏像

飯積寺の本尊は、十一目面観音等身仏で、伏見天皇正応4（1291）年7月、大仏師・法禅園海の作です。

昭和21（1946）年、南海大地震の際、本堂大破により仏像を仮堂に安置中に白蟻の害を受けましたが、平成5（1993）年、京都科学社に依頼して完全に修復しています。

この時の地区を挙げての修復への協力は、カンノンサンに対する地区民の信頼の厚さを物語っています。

■大仏師

奈良時代は、官寺の造仏所で造仏に携わった仏師の長のことをいい、平安時代中期以降は、有力寺院に所属し、多数の仏師を従えて大規模な仏像制作にあたった責任者をいう、とされています。本尊が作られた年代から、後者の制作だと思われます。

■カンノンサン

地区の人たちの信仰は大変厚く、かつては旧暦18日に毎月縁日が開かれていました。特に旧暦の1月、6月の縁日には本尊を開帳するため、遠くから参詣する方も多く、大変にぎわっていました。

また地区では、この日を「カンノンサン」と呼んで、以前はほとんどの家で親しい人を招いての酒宴となり、中には家主の知らない人も飲んでいたという話もありましたが、さすがに今はこのようなことはなくなりました。

縁日は今も盛んで、境内には出店、餅投げがあり、また、宵宮には地区内からのタクシーの送迎もあり、大変にぎわっています。

【今年のカンノンサン（新暦）】

2月8日（宵宮）・9日

8月4日（宵宮）・5日

このシリーズに関するお問い合わせ　黒潮町教育委員会 文化振興係（大方あかつき館内）☎43−2110（直通）